

3. 第3回委員会

日時	令和6年12月6日（金）13：30～17：30			
出席者	委員長	公益財団法人都市緑化機構専務理事		椰野 良明
	委員	公益社団法人日本観光振興協会総合研究所顧問		丁野 朗
		関東学院大学経済学部准教授		豊田 奈穂
		横須賀市文化スポーツ観光部長		倉林 孝英
		横須賀市建設部長		藤田 順一
	事務局	横須賀市 建設部 公園管理課	公園活用推進担当課長	辰馬 和義
			課長補佐	小野 聡三郎
			主任	石橋 喜之
			主任	堀江 大介
			担当者	西山 直治
	株式会社日本総合研究所			河合 孝哉
				日置 春奈
				山田 悠未（記）
		青木 章悟（記）		
議事内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 事務局説明 3. 事前ディスカッション 4. プレゼンテーション・質疑応答 5. 議題 6. 答申書の提出 7. 事務連絡等 8. 閉会 			
資料	資料1 第3回選考委員会の流れ 資料2 事前質問・回答 資料3 暫定評価結果 資料4 最終評価シート 資料5 第4回選考委員会の流れ（案） 資料6 席次表 参考資料1 公募設置等指針等 参考資料2 公募設置等計画等			

(1) 開会

- 椰野委員長より挨拶
- 第3回選考委員会の流れについて事務局より説明
- 委員5人のうち5人全員が出席しているため、三笠公園集客・交流拠点機能拡充事業整備運営事業者選考委員会条例第5条第2項に規定する定足数を満たしており、会議が成立していることを事務局より報告

(2) 事務局説明

- ・ 事前ディスカッション、プレゼンテーションの進め方について、資料1をもとに事務局より説明

(3) 事前ディスカッション

- ・ 提案書及び事前質問・回答を踏まえた提案内容評価について委員間で意見を交換

(4) プレゼンテーション・質疑応答

- ・ 事業者によるプレゼンテーションを実施
- ・ 収益還元について、具体的に何によって収益が上がり、何に還元する見込みか。(委員)
 - 公園のコミュニティ醸成等に寄与する取組み、市民のイベント企画等に還元することを想定しているが、現時点では具体的な金額や実施方法については策定していない。(事業者)
- ・ 収益還元について、いつまでに詳細を定められるイメージであるか。(委員)
 - 開園前の初年度計画策定時までには詳細決定したいと考えている。(事業者)
- ・ 収益還元については、市民イベント等に還元する他、公園施設の小規模な改修等にも還元いただけるとの理解でよいか。(委員)
 - ご理解のとおりである。(事業者)
- ・ 収支計画について、自主事業に関わる支出はどの項目に含まれているのか。(委員)
 - 自主事業のプログラムについてはパークマネジメント業務の支出に含めている。物販についてはその他の項目に含んでおり、自動販売機については光熱費に含めている。(事業者)
- ・ イベントについて、三笠公園のポテンシャルをどのように生かしていくのか。また、どのようにすれば三笠公園に人が集まると考えているか。(委員)
 - 三笠公園の過去を大切にすることを原点として考えている。市民に愛されているイベントに新たな付加価値を付けられるイベントを想定しており、音楽、ダンス、アーバンスポーツ、食、お子様向けのイベントを掛け合わせる形で年間100回のイベント開催を目指す。(事業者)
- ・ 年間100回のイベント開催の実現性を伺いたい。いつごろまでに年間100回のイベン

- ト開催を実現するイメージであるか。(委員)
- 開業から3年後を目標としている。(事業者)
- ・ 年間来園者 250 万人を掲げているが、これは難しい目標であり近隣のビッグコンテンツとの連携が欠かせないとする。特に記念艦三笠等、近隣施設との具体的な連携イメージを伺いたい。(委員)
 - 公募事業であるため、現時点で連携候補先と具体的な取り決め等を交わすところまでは至っていないが、選定された後に連携に関する協議をしたい旨を伝え、了承を得ている。記念艦三笠との連携については、公募対象公園施設で記念艦三笠のグッズを取り扱うことや記念艦三笠の券売機を管理事務所の前に置くといった対応は前向きに取り組むたいと考えている。(事業者)
 - ポートマーケットや猿島との連携についても取り組んでいきたいと考えているか。(委員)
 - イベントの同時開催など、周辺エリア全体で連携していきたいと考えている。(事業者)
- ・ 現状の公園の大規模イベントは、リニューアル後の公園計画でもスペース、機能的に問題なく実施できるという理解でよいか。(委員)
 - 三笠公園の過去を壊すつもりはなく、問題なく実施できる。(事業者)
- ・ 大音量の音楽イベントも開催されると考えられるが、提案された大屋根の形状で問題ないのか。周辺施設への配慮についてはどのように考えているのか。(委員)
 - 基本的には大音量のイベントは休日に開催することで対応することを想定している。また、壁泉で遮断する、前方に音が出るスピーカーを使うといった対応になると考える。(事業者)
- ・ 公募対象公園施設や管理事務所のデザインに対する考え方はどのようなものか。(委員)
 - 海や空という自然に加え、記念艦三笠があるため、それらに調和するために白を基調とすることを考えている。(事業者)
 - 積極的に集客する建物と管理事務所ではデザインが違っていてもよいのではないか。設計を進める中で、全体の色彩計画について専門家の意見を伺うといったことに対応することは可能であるか。(委員)
 - 前向きに検討したい。(事業者)
- ・ これまで三笠公園でイベントを開催したことがなかった人がこの場所でどんなことができるかが想像でき、イベントを開催してみたいと思わせることが重要である。他の公園ではシンボリックなデザインの大屋根も多数あるが、イベント誘致の観点から、大屋根のデザインを再検討することは可能であるか。(委員)
 - 野外ステージの大屋根のデザインについては、壁泉を邪魔するのではないかとという印象を受けたため、再検討してもらえるとよい。(委員)
 - これまでの利用者、今後の利用者の意見は尊重したい。シンボリックなデザイン

については様々な考え方があるため、意見はお聞きし、予算の範囲内で対応できるものであれば前向きに対応したい。(事業者)

- ・ 現状の公園外のトイレは猿島航路の利用者が使うことも数多くある。公募対象公園施設内のトイレを公園の外側からも使用可能とすることについて検討してもらいたい。(委員)
 - 全体のエリア価値向上を考えているため、このように至らない点に関する意見をもらえれば、何がベストなのかを考えて検討する。(事業者)
- ・ 記念艦三笠のミュージアム機能、ホール機能、レストラン機能との連携について、パークマネジメントの中で働きかけていくことは可能か。一体的に使っていくための考え方を伺いたい。(委員)
 - 公園の賑わいを増やすことに加え、記念艦三笠の来館者を増やすことも考えていく必要があることは理解しているが、具体的にはまだ考えられていない。今後詳細検討していく。(事業者)
- ・ 提案にある教育旅行の具体的なイメージはどのようなものか。横須賀市全体でも教育旅行は重要な要素であるため、三笠公園をどのように位置付けていくのか。(委員)
 - 三笠公園はルートミュージアムのサテライト施設の中心に位置している。また、横須賀市内には教育旅行のような大人数を1か所に集められる場所があまりない。そのため、三笠公園はルートミュージアムのサテライト施設を周る中心拠点として使えると考えている。(事業者)
 - ミュージアム機能は記念艦三笠の中にあるが、それとは別に、公園の中にガイド機能やミュージアム機能を持たせることはできるのか。(委員)
 - 管理事務所を再整備して規模が大きくなるため、一部に情報発信の機能を持たせることもできるのではないか。ヴェルニー公園のティボディエ邸で歴史学習等の教育の取り組みを行っており、市内の中学校にも来てもらえて教育旅行に関するノウハウを持つことができた。そのノウハウを三笠公園に活かしながら、ヴェルニー公園とも連携しながら、取り組んでいけると考えている。(事業者)
- ・ 収支計画について、年間来園者 250 万人を実現することが可能か。リニューアル直後は可能としても、10年、20年後も実現することが可能なのか。(委員)
 - 現状は、イベント広場、芝生広場、中央広場などのオープンスペースでイベントを行うことを集客の軸として提案している。しかし、時代によってオープンスペースの使い方の好みも変わるため、変化に柔軟に対応できる体制を取り、運営の中で社会の変化を感じながら新しいものを取り入れていき、来園者を確保していくことにチャレンジしていきたい。(事業者)
- ・ 提案しているテナントが三笠公園には合わず、想定していた収益が得られなかった場合のテナント入れ替え等についてはどのように考えているのか。(委員)
 - 代表企業は、全国で 200 万㎡の貸床をマネジメントしており、出退店の対応を行

っている。提案しているテナントが 20 年間テナントとして入り続けることが望ましいと考えているが、場合によっては市の意向も確認しながらテナントを入れ替えることは可能である。(事業者)

- ・ 周辺住民は公園が変化することに対する不安感もあり、騒音や渋滞など生活環境に関するネガティブな感情を持つこともある。そのようなネガティブな要因にはどのように対応するのか。(委員)
 - ネガティブな意見があることは承知している。ネガティブな意見を聞いた上で対応策を検討する姿勢を持ちたい。具体的な方針については、様々な意見があるため、意見毎に個別に対応することを想定している。周辺住民と対話しながら、理解いただける対応を考えていきたい。(事業者)
- ・ 公園の設計について、樹木等が少ないため日影が少なく、暑熱対策として不十分でないか。また、平常時の公園の魅力向上に資する花修景についてはどのように考えているか。(委員)
 - 旧噴水池上の円形の大屋根を野外ステージと分離して作ったことが、日陰対策の一つである。その大屋根の下でスポーツの練習をしたり、カフェで買ったものを食べたりするような利用を考えている。また、スポットではあるが、移動式のドライミスト車を開発しているため、当該設備の導入などの対応を考えている。加えて、パラソルやパーゴラ等で日陰を作っていきたい。花修景については、実施設計段階で、エントランス周辺、カフェ周辺等で花を楽しめる設計にしていきたいと考えている。特に、東郷平八郎の泉の周りはシンボリックな空間であるため、魅力的な植栽にしていきたいと考えている。(事業者)
 - 今後の設計段階である程度の見直しは可能であると考えてよいか。(委員)
 - 可能である。(事業者)
- ・ パークマネジメントについて、どの程度の人数で実施するのか。また、公園マネジメントの専門家が加わるのか。(委員)
 - 現状の三笠公園の運営人数に 1 人専門職を加える。その他の職員についても公園管理運営士を配置し、80 以上の公園運営実績がある本部がサポートする体制としている。(事業者)
- ・ 三笠公園は都市公園 100 選に選ばれている公園である。選定理由は、記念艦三笠があり、デザインも風格があることである。三笠公園がもともと持っていた良さを設計に活かしてもらいたい。(委員)
- ・ 地元企業の役割について、維持管理にはどの程度地元企業に関わるのか。(委員)
 - 日常の維持管理については直営の地元雇用スタッフで対応し、足りない部分は地元のシルバー人材センターを活用する。高木の剪定やトイレの特別清掃等も地元企業を優先したいと考えているが、費用が大きい業務であるため、予算とのバランスを見ながら進める。(事業者)

- ・ 頂いた提案は基本的に実現することを目指してもらうものと理解しているが、問題ないか。(委員)
 - ご理解の通り。モニタリング以外にも内部で自主点検を実施し、事業期間を全うすることを第一に考えている。変化に対応し、常に利用者に求められる公園にしていきたいと考えている。(事業者)
- ・ インバウンド対応という観点から Wi-Fi 整備についてはどのように考えているか。(委員)
 - インターネット環境の整備は前向きに考えている。インフラ整備の中で光ケーブルの整備を見込んでいる。周辺エリア全体でイベントの同時開催を目指しており、通信事業者とも協議を行っている。(事業者)
- ・ ルートミュージアムのサテライト施設には統一的な看板を設置する取組みを進めているため、協力いただきたい。(委員)
 - 協力する。(事業者)

(5) 議題

- ・ 議題について事務局より説明

① 事業者選考

- ・ 最終評価の方法について、資料4をもとに事務局より説明
- ・ 事前ディスカッション、事前質問、プレゼンテーション、質疑応答を踏まえた意見交換を実施

② 選考結果の確認

- ・ 本委員会として、2グループを選定することで答申を行う。

③ 答申書(案)の確認

- ・ 答申(案)について事務局より説明
- ・ 答申(案)について委員からの意見を聴取

④ 発表資料(案)の確認

- ・ 報道発表資料(案)について事務局より説明
- ・ 報道発表資料(案)について委員からの意見を聴取

(6) 答申書の提出

- ・ 委員長より答申書を提出
- ・ 長井海の手公園に続き、横須賀市の重要なプロジェクトと認識している。選定された

事業者は、市の要求を十分に理解し、三笠公園の特性を生かした公園にすることを提案いただいた。委員会においても、積極的に意見交換を行った。20年間の長きにわたる事業であり、市と十分に連携いただきたい。(榑野委員長)

- ・ 4月の委員会発足から本日より、関わっていただき大変有難い。本日が三笠公園リニューアルの第一歩である。よりよい公園となるよう市も尽力するので引き続きよろしくをお願いしたい。(田中副市長)

(7) 事務連絡等

- ・ 第4回選考委員会(書面会議)について、資料5をもとに事務局より説明
- ・ 審査講評について委員からの意見を聴取

(8) 閉会

- ・ ぜひ提案内容を実行に移すべく市とも連携しながら進めてほしい。P-PFIはPPPの一つであり、民間事業者任せではなく市との協働で推進していただきたい。これにて第3回委員会を閉会する。(榑野委員長)